

岡本 吉央
okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2020年12月1日

最終更新：2020年12月4日 22:30

スケジュール 後半 (予定)

- 8 二部グラフの最小費用完全マッチング：線形計画法 (12/8)
- ★ 国際会議 のため 休み (12/15)
- 9 二部グラフの最小費用完全マッチング：アルゴリズム (12/22)
- 10 一般グラフの最小費用完全マッチング：線形計画法 (1/5)
- 11 一般グラフの最小費用完全マッチング：完全整数双対性 (1/12)
- 12 一般グラフの最小費用完全マッチング：アルゴリズム (概要) (1/19)
- 13 一般グラフの最小費用完全マッチング：アルゴリズム (詳細) (1/26)
- 14 予備 (2/2)

注意：予定の変更もありうる

今日の目標

今日の目標

整数計画法における重要概念を復習する

▶ 緩和

線形計画法, 整数計画法に関連する幾何学を復習する

▶ 凸包

▶ 凸多面体

整数計画法の例

整数計画法問題 = 線形計画問題 + 整数制約

整数計画法問題の例

$x_1, x_2 \in \mathbb{R}$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && 2x_1 + x_2 \\ & \text{subject to} && 4x_1 + 3x_2 \geq 2, \\ & && x_1 \geq 0, x_2 \geq 0, \\ & && x_1 \in \{0, 1\}, x_2 \in \{0, 1\} \end{aligned}$$

線形計画問題との違い

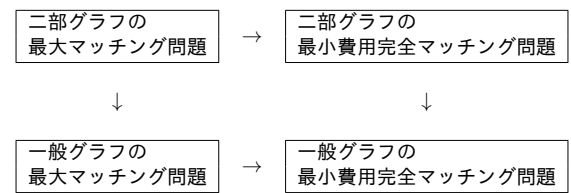
- ▶ 「各変数が0か1しか取らない」という制約がある
- より正確には、「01 整数線形計画問題」と呼ばれる

スケジュール 前半 (予定)

- 1 マッチングの用語 (10/6)
- 2 二部グラフの最大マッチング (10/13)
- 3 二部グラフの最大マッチング：アルゴリズム (10/20)
- 4 一般グラフの最大マッチング (10/27)
- ★ 祝日 のため 休み (11/3)
- 5 一般グラフの最大マッチング：アルゴリズム (11/10)
- 6 線形計画法の復習 (11/17)
- ★ 調布祭片付け のため 休み (11/24)
- 7 整数計画法の復習 (12/1)

注意：予定の変更もありうる

この講義が対象とする4つの問題



この講義で行うこと

「これら4つの問題は多項式時間で解けること」の説明

重要な考え方

- ▶ 最適化における最大最小定理 (強双対性)
- ▶ 費用無し問題のアルゴリズム + 線形計画法 ~> 費用有り問題のアルゴリズム (主双対法)

目次

- 1 整数計画問題
- 2 線形計画緩和
- 3 凸多面体と凸包
- 4 今日のまとめ と 次回の予告

整数計画法問題の例：図

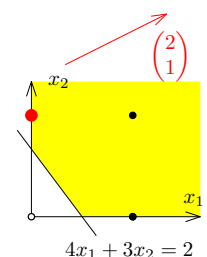
整数計画法問題の例

$x_1, x_2 \in \mathbb{R}$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && 2x_1 + x_2 \\ & \text{subject to} && 4x_1 + 3x_2 \geq 2, \\ & && x_1, x_2 \geq 0, \\ & && x_1, x_2 \in \{0, 1\} \end{aligned}$$

図を描いてみる
そして解いてみる：

- ▶ $x_1 = 0, x_2 = 1$ は最適解
- ▶ 最適値は 1



整数計画問題 (integer program)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数, $A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m, c \in \mathbb{R}^n$ は定数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, \\ & && x \geq 0, \quad \leftarrow \text{成分ごとに「}\geq\text{」} \\ & && x \in \{0, 1\}^n \end{aligned}$$

許容領域: $\{x \in \{0, 1\}^n \mid Ax = b, x \geq 0\}$

整数計画問題の線形計画緩和 (linear programming relaxation)

$A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m, c \in \mathbb{R}^n$ は定数

整数計画問題 (IP)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \\ & && x \in \{0, 1\}^n \end{aligned}$$

(IP) の線形計画緩和 (LP)

これは線形計画問題

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0 \end{aligned}$$

(IP) から整数制約を取り除く \rightsquigarrow (LP) が得られる

線形計画緩和の性質 1: LP の最適値は IP の最適値の下界

$A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m, c \in \mathbb{R}^n$ は定数

整数計画問題 (IP)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \\ & && x \in \{0, 1\}^n \end{aligned}$$

線形計画緩和 (LP)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \end{aligned}$$

線形計画緩和の性質 1

(IP) の最適値 \geq (LP) の最適値

証明: x_I^* を (IP) の最適解, x_L^* を (LP) の最適解とする

- ▶ (IP) の許容領域 \subseteq (LP) の許容領域 なので, x_I^* は (LP) の許容解
- ▶ (LP) の最適解の定義から, $c^\top x_I^* \geq c^\top x_L^*$ □

線形計画緩和の性質: 帰結 (1)

$A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m, c \in \mathbb{R}^n$ は定数

整数計画問題 (IP)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \\ & && x \in \{0, 1\}^n \end{aligned}$$

線形計画緩和 (LP)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \end{aligned}$$

双対問題 + 整数制約 (DIP)

$y \in \mathbb{R}^m$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{maximize} && b^\top y \\ & \text{subject to} && A^\top y \leq c, \\ & && y \in \{0, 1\}^m \end{aligned}$$

双対問題 (DLP)

$y \in \mathbb{R}^m$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{maximize} && b^\top y \\ & \text{subject to} && A^\top y \leq c \end{aligned}$$

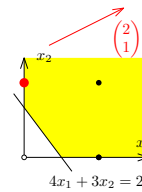
- 1 整数計画問題
- 2 線形計画緩和
- 3 凸多面体と凸包
- 4 今日のまとめ と 次回予告

整数計画問題の線形計画緩和: 図

整数計画問題 (IP)

$x_1, x_2 \in \mathbb{R}$ は変数

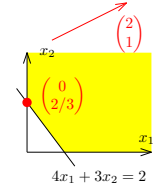
$$\begin{aligned} & \text{minimize} && 2x_1 + x_2 \\ & \text{subject to} && 4x_1 + 3x_2 \geq 2, \\ & && x_1, x_2 \geq 0, \\ & && x_1, x_2 \in \{0, 1\} \end{aligned}$$



線形計画緩和 (LP)

$x_1, x_2 \in \mathbb{R}$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && 2x_1 + x_2 \\ & \text{subject to} && 4x_1 + 3x_2 \geq 2, \\ & && x_1, x_2 \geq 0, \end{aligned}$$



線形計画緩和の性質 2: LP の最適解が IP の許容解ならば, それは IP の最適解

$A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m, c \in \mathbb{R}^n$ は定数

整数計画問題 (IP)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \\ & && x \in \{0, 1\}^n \end{aligned}$$

線形計画緩和 (LP)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \end{aligned}$$

線形計画緩和の性質 2

(LP) の最適解 x_L^* が (IP) の許容解 $\Rightarrow x_L^*$ は (IP) の最適解

証明: x_I^* を (IP) の最適解とする

- ▶ 性質 1 より, $c^\top x_I^* \geq c^\top x_L^*$
- ▶ x_L^* が (IP) の許容解なので, (IP) の最適値の定義より, $c^\top x_I^* \leq c^\top x_L^*$
- ▶ $\therefore c^\top x_I^* = c^\top x_L^*$ であり, x_L^* も (IP) の最適解 □

線形計画緩和の性質: 帰結 (2)

整数計画問題 (IP)

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \\ & && x \in \{0, 1\}^n \end{aligned}$$

線形計画緩和 (LP)

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \end{aligned}$$

双対問題 + 整数制約 (DIP)

$$\begin{aligned} & \text{maximize} && b^\top y \\ & \text{subject to} && A^\top y \leq c, \\ & && y \in \{0, 1\}^m \end{aligned}$$

双対問題 (DLP)

$$\begin{aligned} & \text{maximize} && b^\top y \\ & \text{subject to} && A^\top y \leq c \end{aligned}$$

(DIP) の最適値 \leq (DLP) の最適値 = (LP) の最適値 \leq (IP) の最適値

整数計画問題 (IP)

$$\begin{aligned} &\text{minimize} && c^T x \\ &\text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \\ &&& x \in \{0, 1\}^n \end{aligned}$$

線形計画緩和 (LP)

$$\begin{aligned} &\text{minimize} && c^T x \\ &\text{subject to} && Ax = b, x \geq 0, \end{aligned}$$

双対問題+整数制約 (DIP)

$$\begin{aligned} &\text{maximize} && b^T y \\ &\text{subject to} && A^T y \leq c, \\ &&& y \in \{0, 1\}^m \end{aligned}$$

双対問題 (DLP)

$$\begin{aligned} &\text{maximize} && b^T y \\ &\text{subject to} && A^T y \leq c \end{aligned}$$

(LP) の最適解 (の1つ) が (IP) の許容解で,
(DLP) の最適解 (の1つ) が (DIP) の許容解であるとき,

$$(\text{DIP}) \text{ の最適値} = (\text{DLP}) \text{ の最適値} = (\text{LP}) \text{ の最適値} = (\text{IP}) \text{ の最適値}$$

目次

- ① 整数計画問題
- ② 線形計画緩和
- ③ 凸多面体と凸包
- ④ 今日のまとめ と 次回の予告

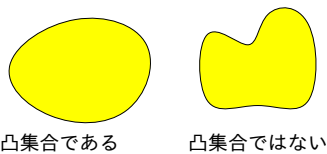
凸集合

集合 $S \subseteq \mathbb{R}^n$

定義：凸集合

S が **凸集合** (convex set) であるとは、次を満たすこと

$$\text{任意の } p, q \in S \text{ と任意の } \lambda \in [0, 1] \text{ に対して, } \lambda p + (1 - \lambda)q \in S$$



注：凸集合ではない集合を **凹集合** とは呼ばない

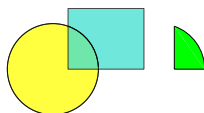
凸集合の重要な性質

$S, T \subseteq \mathbb{R}^n$

凸集合の重要な性質

S と T が凸集合 $\Rightarrow S \cap T$ も凸集合

証明は難しい



線形計画緩和の性質：帰結

(LP) の最適解 (の1つ) が (IP) の許容解で,
(DLP) の最適解 (の1つ) が (DIP) の許容解であるとき,

$$(\text{DIP}) \text{ の最適値} = (\text{DLP}) \text{ の最適値} = (\text{LP}) \text{ の最適値} = (\text{IP}) \text{ の最適値}$$

線形計画緩和の使い方 (次回の予告)

二部グラフに対して、重みが整数であるとき

- ▶ 最小重み完全マッチング問題を (IP) として記述する
- ▶ (LP) の最適値 = (IP) の最適値 となることを証明する
- ▶ \therefore (LP) を解けば、最小重み完全マッチング問題が解ける
- ▶ (LP) を解くときに、(DLP) を利用する
- ▶ その解き方から、同時に (DIP) も解けることが分かる

今から行うこと

線形計画問題と整数計画問題を探究するためには、
幾何学的な直感や概念を活用することが重要

線形計画問題と整数計画問題に関連する幾何学的概念

- ▶ 凸多面体
- ▶ 凸包

今から行うことは、これらの紹介

凸集合の例：半空間

凸集合の例

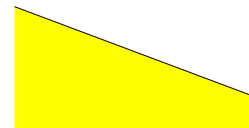
閉半空間 (closed halfspace) は凸集合

$$S = \{x \in \mathbb{R}^n \mid a^T x \leq b\}$$

ただし、 $a \in \mathbb{R}^n - \{0\}, b \in \mathbb{R}$

\therefore 任意の $p, q \in S$ と任意の $\lambda \in [0, 1]$ に対して

$$a^T (\lambda p + (1 - \lambda)q) = \lambda a^T p + (1 - \lambda)a^T q \leq \lambda b + (1 - \lambda)b = b$$



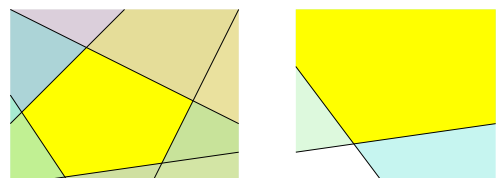
凸多面体

定義：凸多面体

凸多面体 (convex polyhedron) とは、有限個の閉半空間の共通部分

$$\{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax \leq b\}$$

ただし、 $A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m$ (この場合、 m 個の閉半空間の共通部分)



注：凸多面体は空かもしれないし、非有界かもしれない

定義：凸多面体

凸多面体 (convex polyhedron) とは、有限個の閉半空間の共通部分

$$\{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax \leq b\}$$

ただし、 $A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m$ (この場合、 m 個の閉半空間の共通部分)

性質

凸多面体は凸集合

証明：

- ▶ 閉半空間は凸集合で、凸集合の共通部分は凸集合
- ▶ 凸多面体は閉半空間の共通部分だから、凸集合 □

線形計画問題 (LP)

$x \in \mathbb{R}^n$ は変数、 $A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m, c \in \mathbb{R}^n$ は定数

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax = b, x \geq 0 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(LP) の許容領域} &= \{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax = b, x \geq 0\} \\ &= \{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax \leq b, -Ax \leq -b, -x \leq 0\} \\ &= \left\{ x \in \mathbb{R}^n \mid \begin{pmatrix} A \\ -A \\ -I \end{pmatrix} x \leq \begin{pmatrix} b \\ -b \\ 0 \end{pmatrix} \right\} \end{aligned}$$

∴ (LP) の許容領域は凸多面体である

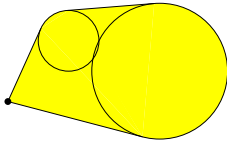
凸包

$S \subseteq \mathbb{R}^n$

定義：凸包

S の凸包 (convex hull) とは、 S を含む最小の凸集合

$$\text{conv}(S) = \bigcap_{T \supseteq S, T \text{ は凸}} T$$



凸包の定義と凸集合の性質より、凸包は凸集合

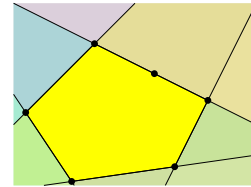
凸包と凸多面体

$S \subseteq \mathbb{R}^n$

定理

(証明は省略)

S が有限集合 $\Rightarrow \text{conv}(S)$ は有界な凸多面体



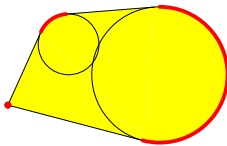
凸集合の端点

凸集合 $S \subseteq \mathbb{R}^n$

定義：端点

凸集合 S の端点 (extreme point) とは、次を満たす $x \in S$ のこと

$$\text{任意の } x', x'' \in S \text{ に対して, } x = \frac{x' + x''}{2} \Rightarrow x = x' = x''$$



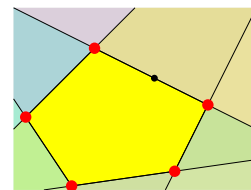
凸多面体の端点と連立方程式

凸多面体 $S = \{x \in \mathbb{R}^n \mid a_i^\top x \leq b_i \forall i \in \{1, \dots, m\}\}$ ($a_i \in \mathbb{R}^n, b_i \in \mathbb{R}$)

性質：凸多面体の端点と連立方程式

$z \in \mathbb{R}^n$ が S の端点 \Rightarrow

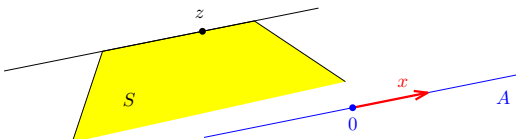
$$n \text{ 個の添え字 } i \text{ に対して, } a_i^\top z = b_i$$



凸多面体の端点と連立方程式：証明

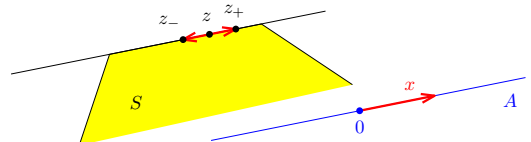
証明： $z \in \mathbb{R}^n$ が S の端点であると仮定する

- ▶ $a_i^\top z = b_i$ を満たす添え字 i 全体の集合を I とする。つまり、
 - ▶ 任意の $i \in I$ に対して、 $a_i^\top z = b_i$
 - ▶ 任意の $i \notin I$ に対して、 $a_i^\top z < b_i$
- ▶ 背理法： $|I| < n$ とする
- ▶ $A = \{x \in \mathbb{R}^n \mid a_i^\top x = 0 \forall i \in I\}$ とすると、 A の次元は 1 以上
- ▶ したがって、0 ではない $x \in A$ が存在する



凸多面体の端点と連立方程式：証明

- ▶ 十分小さい $\varepsilon > 0$ に対して、 $z_+ = z + \varepsilon x, z_- = z - \varepsilon x$ とすると
 - ▶ 任意の $i \in I$ に対して、 $a_i^\top z_\pm = a_i^\top z \pm \varepsilon a_i^\top x = b_i$
 - ▶ 任意の $i \notin I$ に対して、 $a_i^\top z_\pm = a_i^\top z \pm \varepsilon a_i^\top x < b_i$
- ▶ したがって、 $z_\pm \in S$
- ▶ 一方で、 $z = (z_+ + z_-)/2$ であるので、 z は S の端点ではない (矛盾)
- ▶ ∴ $|I| \geq n$ □



凸多面体 $S = \{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax \leq b\}$, $A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m$

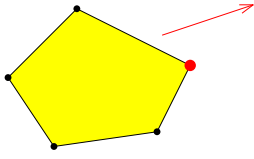
性質：凸多面体の端点と線形計画問題

$z \in \mathbb{R}^n$ が S の端点 \Rightarrow

ある $c \in \mathbb{R}^n$ が存在し, z は次の線形計画問題の最適解

$$\begin{aligned} & \text{maximize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax \leq b \end{aligned}$$

証明は省略



- ① 整数計画問題
- ② 線形計画緩和
- ③ 凸多面体と凸包
- ④ 今日のまとめ と 次回の予告

今日のまとめ と 次回の予告

今日のまとめ

整数計画法における重要概念を復習する

- ▶ 緩和

線形計画法, 整数計画法に関連する幾何学を復習する

- ▶ 凸包
- ▶ 凸多面体

次回の予告

二部グラフの最小費用完全マッチング問題に対して,
線形計画法と整数計画法の考え方を適用する